



草部吉見神社境内で記念撮影

一行は8時30分に熊本市民会館前を出発。途中乗車の2人を乗せて一路、高森町草部の草部吉見神社を目指した。同神社は宮崎県境に近く、社殿が入口の鳥居より低い位置にあることから日本三大下り宮の一つに数えられる。百段以上もある急な石段を下りると、境内には社殿のほか神楽殿もある。そこから一段下った所には古池もあり、数本の杉の大木と相まって荘厳な雰

生時代の環濠集落、円墳などが集中する古墳群、中世の阿蘇大宮司居館跡など多種多様な史跡が存在する見どころいっぱい。さらに、ことし春以来、座学で各方面の専門家から学んだ阿蘇の歴史や人々の暮らしを、現地で確認できる絶好の機会でもあった。この日はさわやかな天気にも恵まれ、参加した17人は散策や地元の方々の説明に聞き入り、秋の一日を十分満喫した様子だった。以下はツアーの報告。(藤野記)

話をうかがった宮司の芹口家は田上家とともに交互に宮司を務めてきた家柄で、現当主で50数代を数えるという。最近SNSで情報が広がっているためか参拝者の数がかなり増えているとの話だった。続いて、神社からやや離れた場所にある日子八井命の神陵を訪れ参拝。神陵をはじめ

困気を醸し出していた。拝殿には芹口宮司が待つておられ、正式な作法に則り参拝を執り行っていた。その後、芹口宮司から神社の主祭神である日子八井命がこの地に來られた由来などをうかがった。命は神武天皇の第一王子で、民生安定のため日向に來られ、民を苦しめる大蛇を退治してこの地に宮居を構えられた。後に、九州の安定のために下向してきた健甕龍命(阿蘇神社の主祭神、日子八井命の甥)がこゝ草部で日子八井命の娘である阿蘇都媛を娶り阿蘇へと向かったという、阿蘇神話の起点となる場所でもある。これが、吉見神社が阿蘇神社より古いとされる所以である。

話をするのがつた宮司の芹口家は田上家とともに交互に宮司を務めてきた家柄で、現当主で50数代を数えるという。最近SNSで情報が広がっているためか参拝者の数がかなり増えているとの話だった。続いて、神社からやや離れた場所にある日子八井命の神陵を訪れ参拝。神陵をはじめ

て訪れた参加者も多く、「ここまで足を伸ばすことができてよかった」との感想が聞かれた。昼時となり、新装なった南阿蘇鉄道高森駅の交流広場で昼食をとった。日曜日でマルシェも開かれていたためか、外国人とみられる観光客も多く見られた。

(2 ページに続く)

今回の現地探訪バスツアーは今年のテーマである「阿蘇の地名と神話・歴史」に南阿蘇を中心として、に沿って10月26日に南阿蘇を訪れた。南阿蘇は、阿蘇神社より古いとされる草部吉見神社をはじめ、弥

神社・遺跡・石垣集落を探訪

バスツアーに
17 人が参加

南阿蘇の歴史・文化学ぶ

熊本乃地名

ニュースレター

発行者 熊本地名研究会
会長 木崎康弘

題字 松野国策 書



今は水田となっている二本木前遺跡

地名研究会 告知板

12 月 行事日程

- ◆例会 「人類紀における火山活動と堆積物から
熊本地域の自然環境変遷を探る」
長谷義隆 氏 (株)アバンス自然災害研究室長
(元熊本大学自然科学研究科教授)
12月14日(日)午後1時30分 パレア会議室9
- ◆勉強会 テキスト「地名の研究」柳田國男著
12月6日(土) 午後1時30分～パレア会議室5
- ◆『ぶらり地名散歩in ばくぶ』 北部公民館周辺地
12月7日(日)9時半～11時半 (座学と散策)
※参加無料 申込み/詳細は「市政だより」P16 参照

地名研ブログでも当会の活動
や関連ニュースを発信中

